

リノベーション・実証の概要

本事業では、インドネシアにおける道路舗装工事のコスト・環境負荷の低減を目的に、アスファルトリサイクル技術の普及を見据えてインドネシアに適合するための実証を行う。加えて、インドネシアに豊富に存在するバイオマス資源をアスファルト混合物製造時の熱源として活用することで更なる低炭素化を目指す。

＜リノベーション・実証の内容＞

- ① 再生アスファルト混合物製造技術のローカライゼーション
- ② 路面切削を含む道路工事の舗装施工技術のローカライゼーション
- ③ バイオマス資源の活用可能性の検証
- ④ アスファルトリサイクルシステム全体のCO2削減効果、事業性の確認



写真1 アスファルト廃棄物



写真2 切削オーバーレイ工法の必要な車道

※切削オーバーレイ工法：路面切削後に放送の施工を行う工法

対象とする国・地域の概要



地図データ©2019 Google

プラント建設場所は西ジャワ州バンドン市を想定
(建設場所は事業を通じて決定予定)

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

事業化見込み

STEP1: 民間敷地内での再生アスファルト混合物の施工実績の積上げ

STEP2: 公共道路での再生アスファルト混合物の試験施工

STEP3: 公共工事の基本仕様にアスファルトリサイクルを反映、国・州・地方自治体の道路補修予算への反映

普及の見込み

2025年に120,000tonの再生アスファルト混合物の販売を目指す。